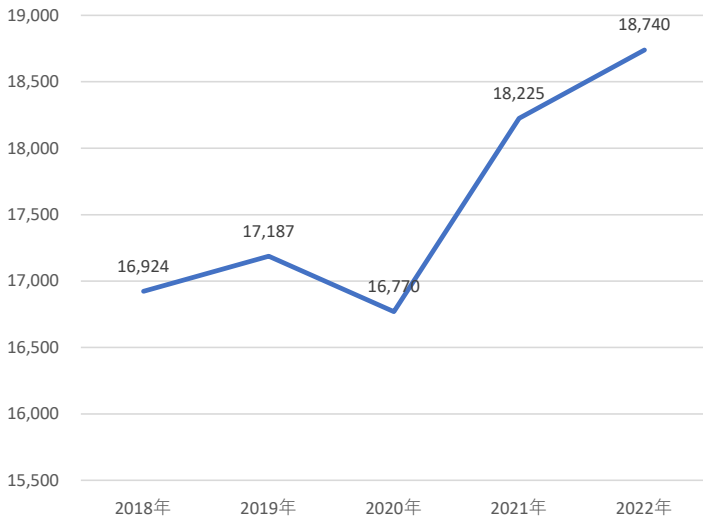


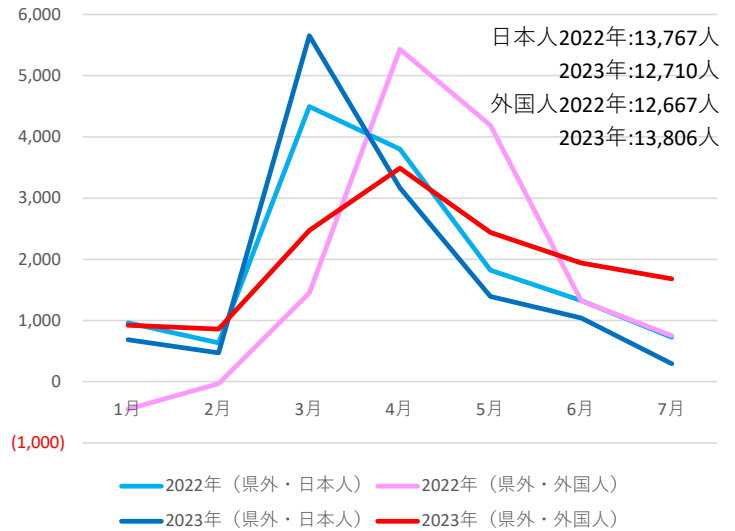
- 近年の本県への日本人人口の社会増の推移は、2020年に減少したものの、その後は増加している。
- 報道等では、2023年に入って東京回帰が進んでいるとのことであった。
- 7月までの傾向を2022年と2023年で比較すると、  
⇒日本人の社会増は約1,100人減少。  
⇒外国人の社会増が約1,100人増加。
- 全体としてほぼ昨年度と変わっておらず、引き続き本県に向かう人の流れが見られる。

千葉県の日本人人口の社会増の推移



【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

2022年と2023年の県外移動（日本人・外国人別）

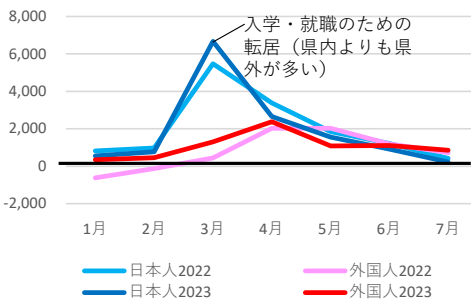


【出典】千葉県毎月常住人口

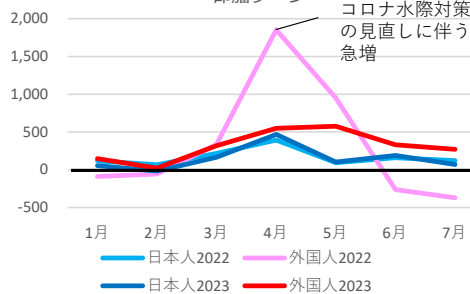
人口の社会増（2022年及び2023年比較）

- 地域別に見ると、2022年4月に新型コロナウイルス感染症に係る水際対策の入国者総数の上限を見直しなどもあり、東葛・湾岸ゾーンを除く、全てのゾーンで外国人の社会増が突出したものの、それ以外の月についてはほぼ同様の傾向が見られる。
- 日本人の社会増減について、香取・東総ゾーン、九十九里ゾーン、南房総・外房ゾーンで3月に大きく社会減となっている。これは県外に移動した者より県内の東葛・湾岸ゾーンへの移動が多いと思われる。ただし、同月の東葛・湾岸ゾーンの社会増の大半は県外から移動してきた者となっている。

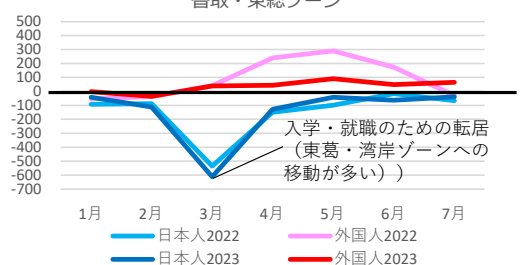
東葛・湾岸ゾーン



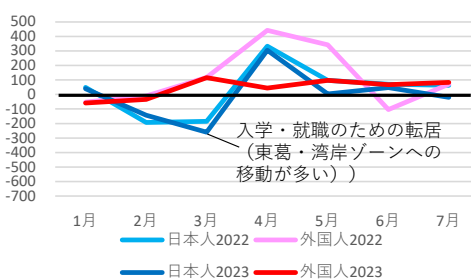
印旛ゾーン



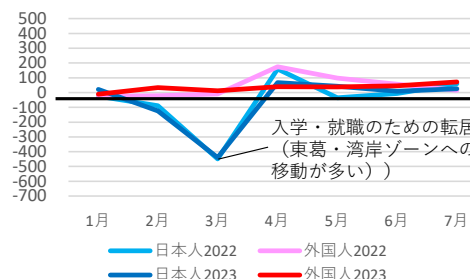
香取・東総ゾーン



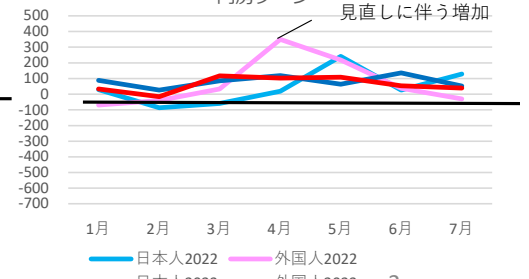
九十九里ゾーン



南房総・外房ゾーン



内房ゾーン

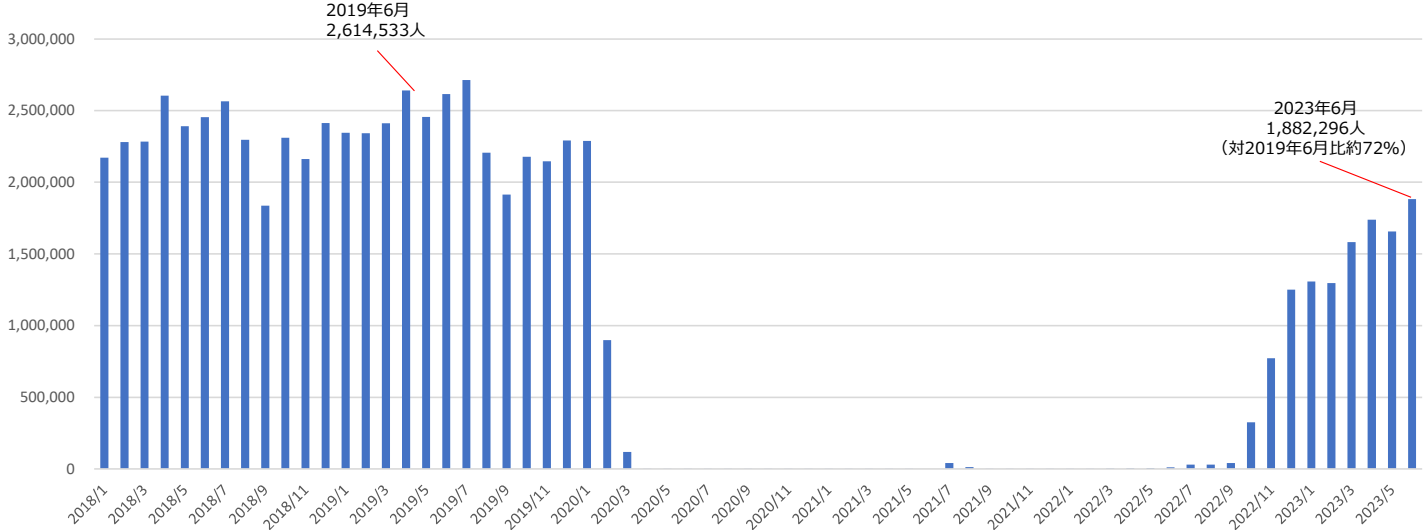


【出典】千葉県毎月常住人口

## インバウンド（2019年比較）

- 2022年10月11日以降、入国者総数の上限が撤廃されるなどの水際対策の緩和が行われたことから、新型コロナで落ち込んだ外国人観光客が回復し始めた。
- 2023年に入ってから回復傾向は続いており、6月には1,882,296人と2019年同月と比較して、約72%まで回復している。

訪日外客数（観光客）：全国



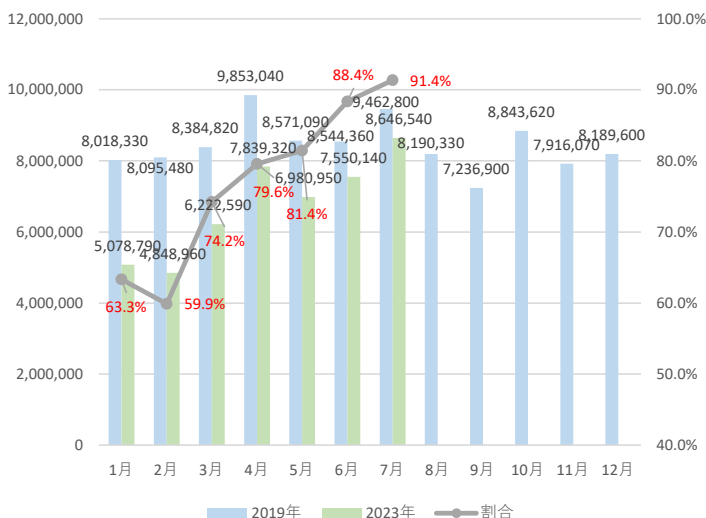
【出典】日本政府観光局（JNTO）訪日外客統計 ※2023年は暫定値

3

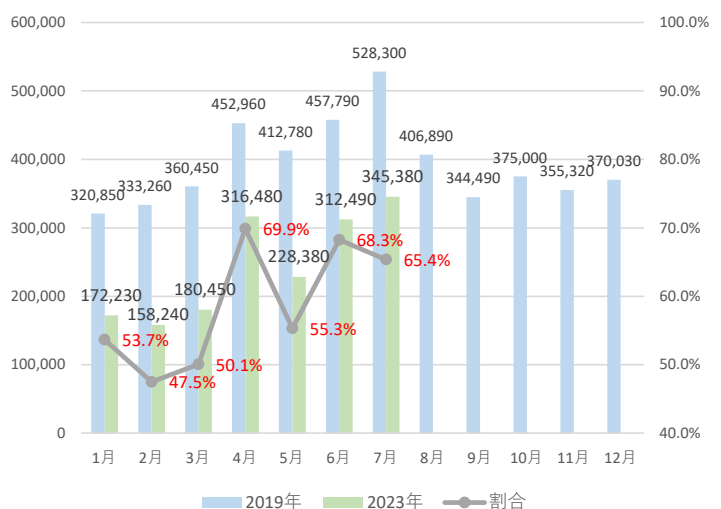
## 外国人延宿泊者数（2019年比較）

- 商用客も含めた外国人の延宿泊者数の動向をみると、2023年と2019年の7月で比較すると、全国は91.4%まで回復している。
- 一方、千葉県では、65.4%となっており、全国と比較すると、回復が遅れている。

外国人延宿泊者数（全国）



外国人延宿泊者数（千葉県）



【出典】観光庁 宿泊旅行統計調査 ※2023年は第2次速報値

4

## 外国人延宿泊者数（2019年比較）

- 国別に傾向をみると、千葉県は全国に比べて、もともと中国の宿泊者数が多くなっており、全国的に中国宿泊者数が戻ってきていないことから、千葉県の回復が遅れていると考えられる。
- 一方で、アメリカやカナダなどの宿泊者数が全国、千葉県ともに2019年よりも大きく伸びている。

全国	2019年1月	2023年1月	1月比較	2019年7月	2023年7月	7月比較
韓国	1,387,350	1,103,590	79.5%	1,032,230	1,210,980	117.3%
中国	2,310,310	299,270	13.0%	2,626,420	1,392,740	53.0%
香港	536,070	540,860	100.9%	583,330	657,850	112.8%
台湾	1,113,420	803,510	72.2%	1,182,950	1,319,860	111.6%
アメリカ	390,260	401,330	102.8%	689,110	1,021,570	148.2%
カナダ	56,030	54,750	97.7%	69,110	146,390	211.8%
イギリス	76,360	63,030	82.5%	109,430	154,160	140.9%
ドイツ	45,330	33,460	73.8%	75,780	98,670	130.2%
フランス	52,980	37,010	69.9%	101,300	152,360	150.4%
ロシア	27,720	6,200	22.4%	31,890	12,470	39.1%
シンガポール	138,220	162,660	117.7%	226,980	155,800	68.6%
タイ	283,240	222,490	78.6%	164,330	161,750	98.4%
マレーシア	83,990	91,560	109.0%	88,970	63,000	70.8%
インド	28,620	20,640	72.1%	57,510	51,450	89.5%
オーストラリア	417,800	273,500	65.5%	170,260	221,250	129.9%
インドネシア	138,490	90,680	65.5%	209,570	107,290	51.2%
ベトナム	28,690	41,260	143.8%	69,550	68,170	98.0%
フィリピン	72,770	74,940	103.0%	90,390	120,590	133.4%
イタリア	29,510	21,580	73.1%	62,250	82,820	133.0%
スペイン	21,590	14,360	66.5%	60,950	101,630	166.7%
その他	515,150	413,780	80.3%	650,120	999,280	153.7%
※中国割合	29.8%	6.3%		31.4%	16.8%	

千葉県	2019年1月	2023年1月	1月比較	2019年7月	2023年7月	7月比較
韓国	19,750	12,880	65.2%	25,880	15,920	61.5%
中国	120,270	10,790	9.0%	254,630	51,320	20.2%
香港	11,240	8,430	75.0%	16,430	15,450	94.0%
台湾	37,660	29,020	77.1%	80,600	63,560	78.9%
アメリカ	24,670	17,760	72.0%	34,840	58,180	167.0%
カナダ	3,100	2,800	90.3%	5,230	7,270	139.0%
イギリス	2,870	1,380	48.1%	3,910	4,020	102.8%
ドイツ	1,220	1,030	84.4%	2,300	1,900	82.6%
フランス	1,120	540	48.2%	2,280	1,770	77.6%
ロシア	1,550	160	10.3%	2,930	330	11.3%
シンガポール	4,250	4,510	106.1%	4,880	4,440	91.0%
タイ	18,920	11,940	63.1%	19,870	13,090	65.9%
マレーシア	4,480	3,970	88.6%	3,580	2,940	82.1%
インド	1,250	1,200	96.0%	1,640	4,300	262.2%
オーストラリア	18,700	10,020	53.6%	11,430	8,820	77.2%
インドネシア	5,940	4,120	69.4%	5,750	5,120	89.0%
ベトナム	3,010	3,470	115.3%	7,550	5,760	76.3%
フィリピン	3,970	5,440	137.0%	5,380	8,260	153.5%
イタリア	570	390	68.4%	780	850	109.0%
スペイン	470	250	53.2%	1,490	1,000	67.1%
その他	22,400	24,120	107.7%	35,920	38,440	107.0%
※中国割合	39.1%	7.0%		48.3%	16.4%	

【出典】観光庁 宿泊旅行統計調査 ※2023年は第2次速報値

5

## 外国人延宿泊者数（2019年比較）

- 都道府県別に傾向を見ると、東京都、京都府・大阪府、福岡県などの大都市圏において宿泊客の回復が進んでいる。
- 一方で、地方部においては回復が遅くなっている傾向にある。

	2019年1月	2023年1月	1月比較	2019年7月	2023年7月	7月比較
北海道	1,090,200	589,810	54.1%	775,190	599,600	77.3%
青森県	23,630	10,330	43.7%	27,720	19,290	69.6%
岩手県	28,510	11,740	41.2%	19,450	18,610	95.7%
宮城県	38,320	23,480	61.3%	40,950	42,730	104.3%
秋田県	7,470	3,920	52.5%	8,240	6,690	81.2%
山形県	25,710	19,100	74.3%	8,830	5,930	67.2%
福島県	13,900	12,890	92.7%	9,430	15,020	159.3%
茨城県	10,700	8,320	77.8%	18,370	13,630	74.2%
栃木県	15,630	12,500	80.0%	16,810	16,180	96.3%
群馬県	24,590	22,580	91.8%	15,330	17,090	111.5%
埼玉県	11,600	9,260	79.8%	20,270	16,600	81.9%
千葉県	320,850	172,230	53.7%	528,300	345,380	65.4%
東京都	1,988,040	1,839,860	92.5%	2,535,980	3,157,860	124.5%
神奈川県	189,210	110,230	58.3%	273,410	213,720	78.2%
新潟県	80,970	47,560	58.7%	23,390	12,740	54.5%
富山県	12,450	4,520	36.3%	23,070	10,080	43.7%
石川県	64,530	31,060	48.1%	82,920	59,060	71.2%
福井県	5,370	2,200	41.0%	5,070	3,230	63.7%
山梨県	132,770	56,130	42.3%	166,620	94,660	56.8%
長野県	165,750	110,630	66.7%	76,540	55,260	72.2%
岐阜県	100,420	32,810	32.7%	95,780	41,560	43.4%
静岡県	130,390	29,730	22.8%	229,080	82,720	36.1%
愛知県	236,770	88,650	37.4%	327,020	169,300	51.8%
三重県	19,380	6,480	33.4%	34,480	10,890	31.6%

	2019年1月	2023年1月	1月比較	2019年7月	2023年7月	7月比較
滋賀県	25,960	19,910	76.7%	32,130	16,790	52.3%
京都府	521,710	400,720	76.8%	789,610	937,680	118.8%
大阪府	1,244,450	693,280	55.7%	1,578,380	1,512,180	95.8%
兵庫県	100,500	50,690	50.4%	121,210	72,790	60.1%
奈良県	26,430	5,970	22.6%	51,780	20,910	40.4%
和歌山県	20,310	12,070	59.4%	33,270	26,230	78.8%
鳥取県	12,350	2,190	17.7%	16,580	5,240	31.6%
島根県	4,650	1,570	33.8%	5,260	3,740	71.1%
岡山県	24,410	8,270	33.9%	39,510	28,340	71.7%
広島県	55,830	22,150	39.7%	103,760	83,990	80.9%
山口県	10,250	4,880	47.6%	7,950	6,120	77.0%
徳島県	6,460	3,150	48.8%	7,760	5,830	75.1%
香川県	27,300	8,000	29.3%	49,350	30,700	62.2%
愛媛県	16,540	4,570	27.6%	17,050	12,050	70.7%
高知県	4,040	1,820	45.0%	6,710	5,640	84.1%
福岡県	348,610	281,250	80.7%	358,840	388,300	108.2%
佐賀県	37,120	8,350	22.5%	30,560	10,320	33.8%
長崎県	44,200	17,670	40.0%	50,770	33,500	66.0%
熊本県	66,580	37,080	55.7%	70,830	59,860	84.5%
大分県	112,110	55,370	49.4%	66,040	65,600	99.3%
宮崎県	31,000	7,700	24.8%	21,290	11,890	55.8%
鹿児島県	71,460	16,020	22.4%	48,100	18,990	39.5%
沖縄県	468,900	160,080	34.1%	593,790	262,030	44.1%

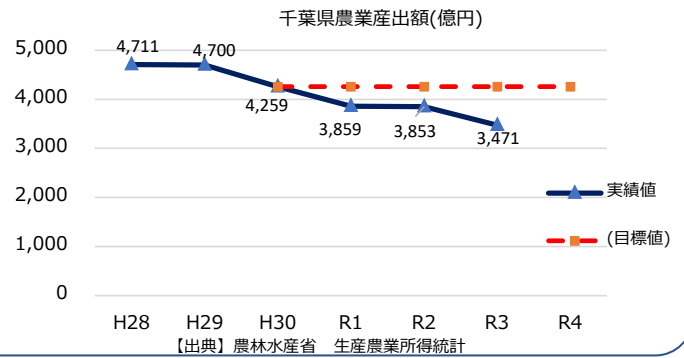
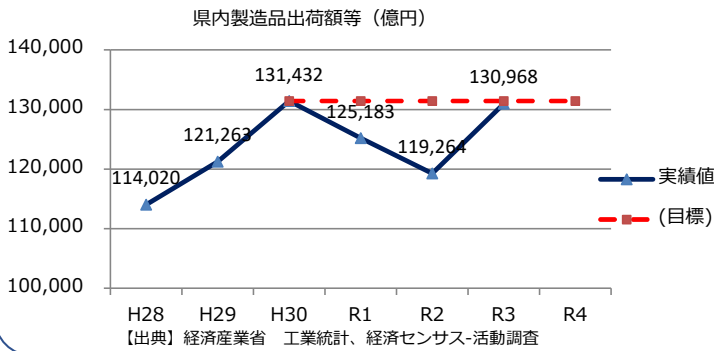
【出典】観光庁 宿泊旅行統計調査 ※2023年は第2次速報値

6

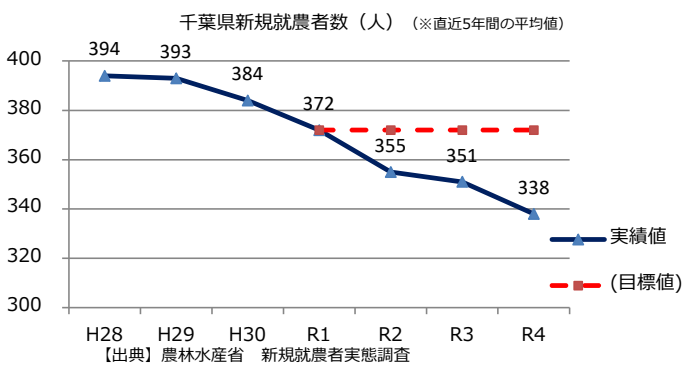
# 第2期戦略で整理した第1期戦略の計画期間における主な課題と現在の進捗状況等

## 基本目標 1 地域経済の好循環を生み出す環境づくり

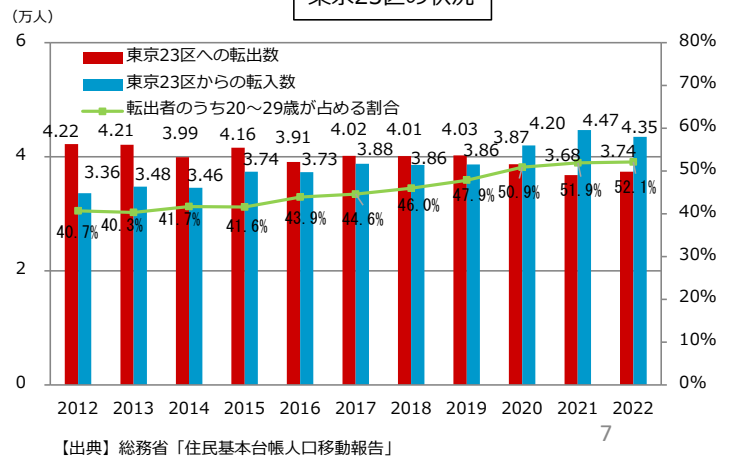
数値目標



KPI



東京23区の状況



# 第2期戦略で整理した第1期戦略の計画期間における主な課題と現在の進捗状況等

## 第2期戦略で整理した課題と現状

※「・」は第2期戦略策定時の状況 「⇒」は現状

### 【“一人ひとりの働きたい”がかなう千葉づくり】

#### ○様々な分野において人手不足への対応が急務

- ・本県の生産年齢人口は、2040年にはピーク時の約8割に
- ・一部の地域では、人口減少に歯止めがかからない状況  
⇒「人口の社会増」は戦略策定時よりも増加しているが、地域ごとに差が大きい。  
⇒「新規就農者数」は年々減少している。

#### ○魅力ある雇用の場の創出のため、地域産業の振興・高付加価値化による競争力強化が必要

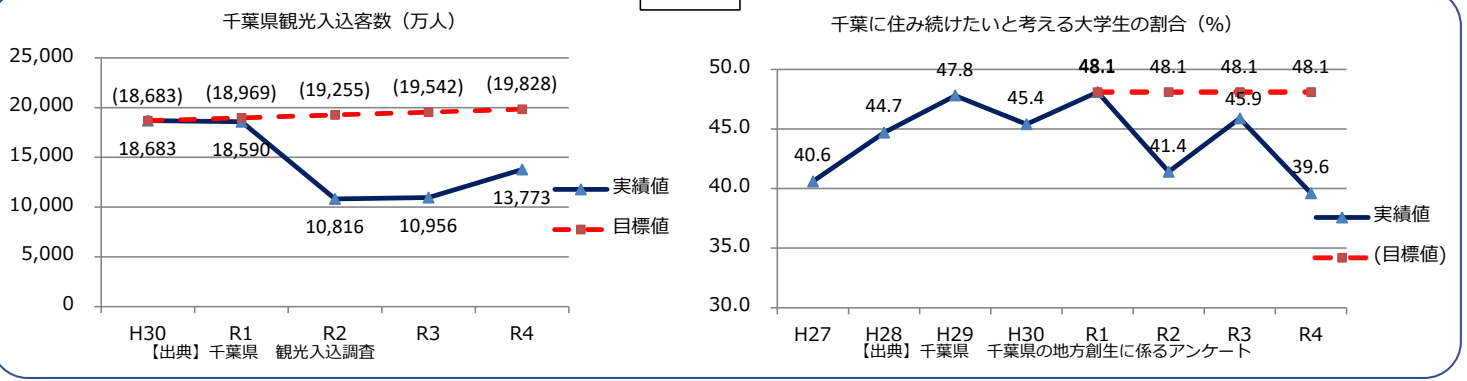
- ・製造品出荷額等は順位を下げ、2017年では全国8位に
- ・農業産出額は2014年に全国3位から4位に下げた以降、依然として4位  
⇒「製造品出荷額等」は、2021年では全国8位。  
⇒「農業産出額」は2021年は本県で多発した鳥インフルエンザの影響などもあり、全国6位。

#### ○若者の東京流出に歯止めをかけることが必要

- ・東京23区への転出者数は横ばいであるのに対し、そのうち20代の若者が占める割合は全体の半数近くを占めている。  
⇒東京23区との関係では、2019年までは転出超過であったのが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2020年以降、転入超過に転じている。  
⇒転出者を年代別に見ると、20歳代の若者の割合が半数以上を占めており、増加傾向。

基本目標2 県内外に発信する魅力づくり

K P I



地域別の観光入込客数 (延べ人数) の状況

(単位: 千人地点)

区分	千葉	東葛飾	印旛	香取	海匝	山武	長生	夷隅	安房	君津
令和4年	23,319	42,380	19,315	8,437	4,527	4,456	2,985	1,956	9,450	20,909
令和3年	18,728	26,929	17,046	7,331	4,101	3,767	2,522	1,735	7,669	19,730
令和元年	31,531	65,836	26,629	8,997	5,600	5,042	4,232	2,466	10,181	25,383
対前年比 (%)	24.5	57.4	13.3	15.1	10.4	18.3	18.4	12.7	23.2	6.0
対元年比 (%)	▲26.0	▲35.6	▲27.5	▲6.2	▲19.2	▲11.6	▲29.5	▲20.7	▲7.2	▲17.6
R4地域別構成比 (%)	16.9	30.8	14.0	6.1	3.3	3.2	2.2	1.4	6.9	15.2

【出典】令和4年観光客の入込動向について (速報値)

9

第2期戦略で整理した課題と現状

※「・」は第2期戦略策定時の状況 「⇒」は現状

【“国内外の多くの人々が集う”魅力あふれる千葉づくり】

○増加する観光客の県内周遊の促進が必要

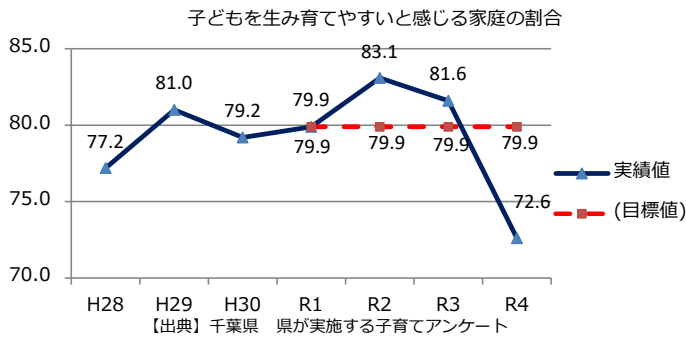
- ・観光入込客数は増加しているが、本県を訪れる観光客は日帰り客が多く（観光入込客統計（観光庁））、エリアも成田空港周辺や千葉・浦安に集中（千葉県観光入込調査報告書）  
⇒「観光入込客数」は新型コロナウイルスの影響で令和2年に減少し、回復傾向にあるが、未だ令和元年の水準まで回復していない。また、外国人延宿泊者数の傾向をみると、全国的にはほぼ令和元年度近くまで回復しているが、本県の回復は遅くなっている。  
⇒県で実施している令和4年観光客の入込動向の速報値で、東葛飾地域や長生地域、印旛地域で令和元年比の減少幅が大きくなっている。

○千葉県民としてのアイデンティティーの醸成が必要

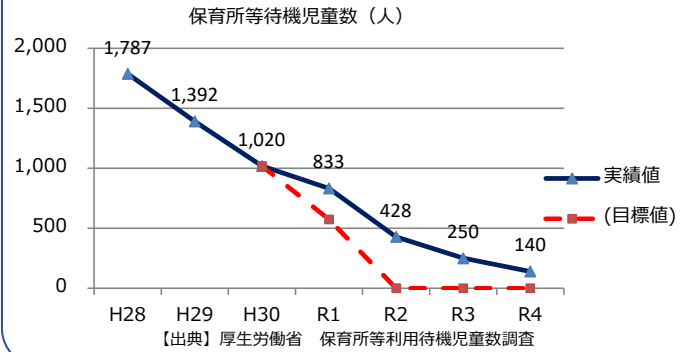
- ・東京23区などへの転出者における割合が多い若者に地元に対する関心や地域を支える熱意を持っていただき、地元に着定していただくことが課題  
⇒「千葉に住みたいと考える大学生の割合」が令和元年度と比べて低下している。このようなこともあり、本県からの転出者のうち、20歳代の若者が半数以上を占めており割合は依然増加傾向にある。

基本目標3 子育てしやすい社会づくり

数値目標



KPI



第2期戦略で整理した課題と現状 ※「・」は第2期戦略策定時の状況 「⇒」は現状

【“それぞれの結婚・出産・子育ての希望”がかなう千葉づくり】

○若者や女性が活躍できるような環境づくりが必要

- ・保育所等待機児童数は1,020人（2019年4月1日時点）と依然多く、特に都市部での待機児童解消が課題（保育所等利用待機児童数調査）

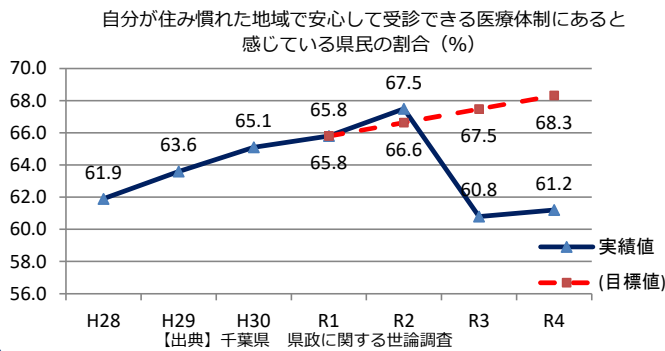
⇒「保育所等待機児童数」は2022年4月1日時点で140人まで減少している。

⇒一方で、「子どもを生き育てやすいと感じる家庭の割合」は令和4年に大きく減少している

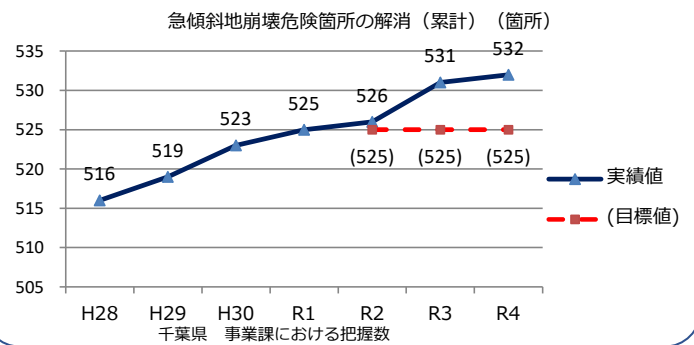
⇒新型コロナウイルス感染症の影響もあり、出生数が減少している。

基本目標4 誰もが安心して暮らせる地域づくり

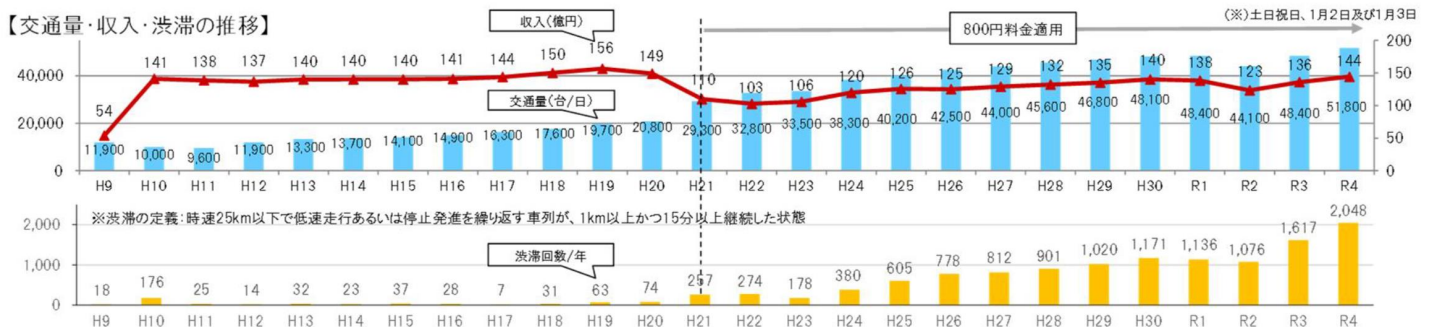
数値目標



KPI



アクアラインの交通量等の推移



第2期戦略で整理した課題と現状

※「・」は第2期戦略策定時の状況 「⇒」は現状

【“安全・安心な暮らし”がかなう千葉づくり】

○人やモノの流れを活性化させる交流基盤の更なる整備が必要

- ・アクアライン料金引下げ継続、圏央道など高規格幹線道路やアクセス道路の整備、成田空港の更なる機能強化等の着実な実施が課題  
⇒アクアラインでは、土日・祝日の特定の時間帯に交通が集中することによって激しい混雑が発生していることから、混雑緩和のための社会実験を実施している。  
⇒圏央道や北千葉道路などの整備が進んでいるほか、成田空港の更なる機能強化についても着実に実施されるなど、ポテンシャルが一層拡大する好機を迎えている。

○地域で快適に暮らせる生活環境づくりが必要

- ・県外に移りたい理由は「生活環境をより良くしたいから」「通勤や通学、買い物、医療など、日常生活の利便性が悪いから」が約4割で最も高い(県政世論調査)  
⇒新型コロナを契機に自然の豊かさ等の本県の良さが再認識され、「人口の社会増」が拡大。  
⇒令和元年房総半島台風等以降も大きな災害が生じ、「安全」の確保に対する県民の期待が高まっている。

○高齢者が活躍し続けられる環境づくりが必要

- ・本県の高齢化率は、2020年の26.8%から2040年には33.5%へと急速に高まると見込まれている。  
⇒人口減少が進む中、社会の活力を維持していくためには、高齢者だけでなく、年齢、性別、国籍、障害の有無などに関わらず誰もが活躍できる環境づくりが必要。

## 第2期戦略の進捗状況等を踏まえた課題

### 【働く】

- ・人口の社会増が続いているが地域差が大きい。
- ・新規就農者数が年々減少している。



- ・様々な分野において担い手不足の解消が必要

- ・千葉県のポテンシャルが一層拡大する好機を迎えている。



- ・本県のポテンシャルを活かし、良質な雇用の場の創出が必要

- ・感染症の影響で落ち込んだ観光産業が未だ回復せず。
- ・本県は全国比較で外国人延宿泊者数の回復が遅い。



- ・観光客をひきつける高付加価値の観光コンテンツの醸成が必要

### 【活躍する】

- ・人口減少が加速し、担い手不足がより深刻化する。



- ・年齢、性別などに関わらず誰もが活躍できる環境が必要
- ・社会に出てからも、必要なスキルを身に付けられる環境が必要

- ・人口の社会増が拡大しており、千葉に向かう人の流れを加速する必要がある。



- ・半島性を克服する交通ネットワークの整備が必要
- ・地域のブランド化を進め、移住等の推進が必要

15

## 第2期戦略の進捗状況等を踏まえた課題

### 【育み・育つ】

- ・子どもを生き育てやすいと感じる家庭の割合が減少している。



- ・子育て環境の一層の充実が必要

- ・感染症の影響もあり、出生数が減少している。



- ・安心して妊娠・出産・子育てができる環境整備が必要

### 【暮らす】

- ・令和元年房総台風等以降も大きな災害が生じており、「安全」の確保に対する県民の期待が高まっている。



- ・地域で安全で快適に暮らせるまちづくりが必要

- ・感染症の影響もあり、安心して受診できる医療体制にあると感じている県民が減少している



- ・健康で安心して暮らせる社会の構築が必要

16